

<2024年3月期 第1四半期 決算説明会 主な質疑応答>

日時 : 2023年7月28日(金) 17:00~17:50
出席者 : 岩本 CFO、小畑 CSO 補佐、會田 CFO 補佐

Q. 業績予想修正について、上方修正を行った4本部(金属・モビリティ・食生・アプリカ)について、為替前提を円安に見直したことによる影響額は?加えて、修正計画に対しても各本部進捗率が高いが、単に保守的なのか、何かリスクをみているのか。

A. 全体でみると為替を10円円安方向へ、前回公表比税後利益150億円弱のプラスをみている。本部別の開示は差し控える。

影響が大きいのはユーロベースのアプリカとトレーディングが多い金属。

1Qは非常に良い結果だが、今後この状況が続くかは不透明であるため、ある程度保守的にみている。生産台数について当初計画では保守的に見ていたが、実績は好調。但し、今後は為替の円高と凡そオフセットされるとみており、今回の修正計画にはあまり見込んでいない。

リスクについては、市況はこれ以上悪化するとはみえていない。但し、アプリカ本部についてはカントリーリスクを勘案し、保守的にみている。

Q. 業績予想修正に伴う増配はあるものの、還元方針変更について現状どのような議論になっているか。

A. 還元方針の見直しに関して市場の期待があることは理解している。その上で現在も経営で議論を進めている。

Q. アプリカの販売について1Qは出来過ぎたという話もあったが、今後の見通しを保守的にみるのは需要の落ち込みか、タイトな供給かどちらの要因か。また、他の地域についても教えてほしい。

A. 当社として販売在庫は十分確保できている状況。販売はモーリタニア、ギニア、マリ、チャドなど西アプリカ諸国が特に好調で、アプリカでのモータリゼーションが進展してきていると感じている。懸念としてカントリーリスクは根強い。

また、南アプリカは昨年の洪水の影響により前年同期比ではプラスだが思ったほど数字が出なかった印象。

アプリカ以外の地域では当社が得意とするコーカサス、アドリア地域向けは好調。カンボジア、パプアが前年同期比では不調だが、これは昨年が良すぎたため。販売マージンに関しては当初の想定程は下がっていない。

Q. BSが非常に強固になっているが、株主還元方針について改めてお伺いしたい。

A. 1Qの業績が好調であったこと、トヨタ生産台数も伸びており株主資本の一層の積み上げが見込めることから、配当還元に関しては引き続き社内で議論を重ねていきたい。

Q. 生産台数が想定よりも上振れた点について、それぞれのセグメントへの影響は。またその他の本部についても教えてほしい。

- A. 金属は在庫をリーンにできており、台数増の恩恵を受けている。
 グロロジの1Qは良かったがこれ以上上振れるとは考えていない。モビリティはマージンがとれていることと、為替影響を反映した。化エレは半導体の値上げによりマージンを確保できたが、これが継続するとは考えていない。食料はブラジル豊作に対して輸出価格が好調なため、利ザヤがとれた。アフリカは景況感やカントリーリスクがどう出るかわからないところがあり、その点は保守的にみている。

Q. アフリカの自動車販売について。在庫は十分にあるとのことだが、カントリーリスクが顕在化した場合に、在庫滞留によるPL影響はないのか。他の国への販売などによりカバーできるのか。

- A. 右ハンドル、左ハンドルやその国の認可の問題があり、アフリカ向けに出したものを簡単に欧州や東南アジアに持っていくことができないが、現地で販売しているトヨタ車は市場の評価が高く値崩れしないため、万が一、マーケットが崩れ、販売に時間がかかったとしても、PLのダメージは少ないと思う。現地通貨のデバリの影響は考えられる。

Q. 機エネ本部について、機械とエネルギーという性質の違うものを含むと思うが、それぞれ1Qの評価と今後の見通しは。

- A. 機械関連にあたる車両工場の設備関連は非常に強く、先の受注も入っており、計画以上に出るとみている。エネルギーについては、化石燃料の商売はしておらず、現在はバンカーオイル等しか商売は行っていない。
 電力については、ヨーロッパの電力価格が見えない状況。当社はオランダ、イタリア、スペインが強い。この夏は非常に暑い為、需要が高まり電力価格が戻ってくれば利益も戻るが、先安で見ており堅めにみている。太陽光については大きなプラスはまだみえない。
 今後の洋上風力や次の新しいエネルギー開発（水素やその他代替燃料）についての開発費は予算化しているので、開発が遅れる場合はプラスに働くこともある。
 機械が強いというのが頼り。

Q. 今後考えられるリスクとしては①円高リスク、②アフリカのカントリーリスク、③車載エレクトロニクス関連のマージンの低下、3つの理解で良いか。

- A. その通り。リスクに関しては加えるとすると金利。本日の金融政策決定会合にてイーールドカーブコントロールをやめるとまでは言わなかったため、金利が急激には上がるとは考えていないが、急激な利上げが実施される場合は当社への影響もある。車載エレクトロニクスについては、今後調達コストが上がった場合、値下げ圧力も懸念事項。

Q. 在庫に関して、為替影響を除いても3月末対比で積み上がってきている理解である

が、セグメントごとの在庫の動きについて。また、今期のトヨタの生産台数は1,020万台程度になると見られるが、トヨタの生産に連動した形で利益が期待できるのか。

- A. 食料、半導体は1Qで在庫を積み増して3月末にかけて在庫を捌いていくビジネスモデルであることから1Qは在庫は伸びるタイミング。これらを鑑みると為替を除いて400億円しか増えていないと捉えてる。特に金属の自動車関連は低い在庫水準でリーンにビジネスを進めており、全社で見ても40日の回転日数で回すことができている。マージンに関しては問題なく確保できている。

以上